

# 津高同窓会報

発行所  
津市新町3丁目1-1  
津高等学校  
同窓会事務局  
0592-28-0256  
共立印刷株式会社

# 創立百周年記念アルバム



## 「献身に深謝」

学校長 澤下 春男

同窓会員の皆さまには、各界各地でご活躍のこととお喜び申し上げます。昨年は、津高創立百周年の盛事にあたり、これを記念して、多岐にわたる事業や、多彩な行事を企画いたしました。ひとい

に会員諸兄姉、並びにPTA各位の献身的なご援助によるものです。目下のごときは、会員名簿の発行、記録集(昨秋の盛典の記録、決算の二報告など)の編集、諸残務の処理などの仕事をすすめております。先輩各位のご芳志の結晶である「百周年記念館」も、きわめて立派な竣工、すべりにあがりたく活用を始めさせてもらっております。理科棟周辺の整備工事も、県当局によって順調にすすめられ

旧校長会周辺の整備事業とも、年度内には完了いたします。教職員、在校生は、百周年記念誌「あ、母校」に寄せられた幾多のおおききをはじめ、記念講演会その他で頂戴したおはげましを体し、ますます、一〇一年目にむかって、力強く、再出発の第一歩を踏み出しております。深甚の謝意を表するとともに、倍旧のご高導とご鞭撻を切にお願ひ申しあげ、ごあいさついたします。



山口誓子氏(右)と歓談する吉原同窓会長(紅白の幔幕が張られた中庭で)

## 経ヶ峯見ゆ

久闊を叙す顔々の晴れやかに宴はじまるも母校の庭に

お点前の生徒らはよく振舞ひて遠来の客もてなさむとす

司会者の礼深き声に領きて野田哲造氏やをら立たすも

格調の高き校歌ぞ奏で出づるプラスバンドに視線あつまる

百年の母校を祝ふ記念歌の指揮執る人は野田暉行氏

教科書に学びし誓子の揮毫にて校歌に因む句碑一基建つ

カンカンと鉄打つ音の耳にあり今ぞ成りたる記念館前

和やけき宴をはりて付めば目に懐しき経ヶ峯見ゆ

(昭和30年卒) 森田 真生

## ヒマラヤ

百年祭に、はるばると参列しました。柳山とは校舎もがうし、津中の校舎が焼夷弾攻撃で失なわれてしまっていたことは知っていました。それでも吉原から近鉄に乗りかえり、もう矢も楯もたえず走りまわって、幾十年ぶりに降り立った津駅。遠いところから戻りますと、ひとしお津がなつかしく、女学校時代を思い出します。▼記念式典の冒頭——同起立をしまして同窓物故者にたいして黙祷をいたしました。ちよと、昭和十二年、七月七日、七夕さんの宵に支那事変ははじまったのでしたが、そのころ、津の公園裏は梁山がつつき、野菊やいぬふりがいっぱい咲いていて、私は幼なじみのAさんとよく遊んだものです。やがてそのAさんも出征し、私たちは機(のぼり)を立て、軍歌に合わせ、小旗を手にもって駅まで送ったことをおぼえています。そして、そのままAさんは帰ってきませんでした。あまりに思ってしまったのですが、一分間の黙祷のとき、ふだんはあまり思い出さなかったのですが、今、なつかしく、ありありと、きれいなフィルムのように目のウラに映ったではありませんか。▼あの時代、女学生たちは、いまの若いみなさんには思ってもみないくらい、モンベというのをはいていて、千人針も、慰問袋づくりも、もういまは昇華してしまっただ、なつかしい思い出ですが、戦争を知らないみなさんに申し上げたいことは、戦争ほど非人間的なことはないから、戦争は二度とおこしてはならないということです。▼私には馬鹿な生きのびて、百年祭の盛事にめぐり合え、まのあたり、教々の催しを見ることができました。友垣と再会して、つづがなきをよるこび合うこともできましたけれど、Aさんと同じように、戦争にいてはくなられた、もの言わぬ人びとのお話を、もうと、胸が張り裂けます。▼津高百年は、その大部分が意味では戦争の百年ともいえます。ですから、そのことを深く反省するときに、戦争を二度とたたびおこさないために、みなさんは勉強するのだといえないでしょうか。

百年の校史をのべる現校長澤下春男氏

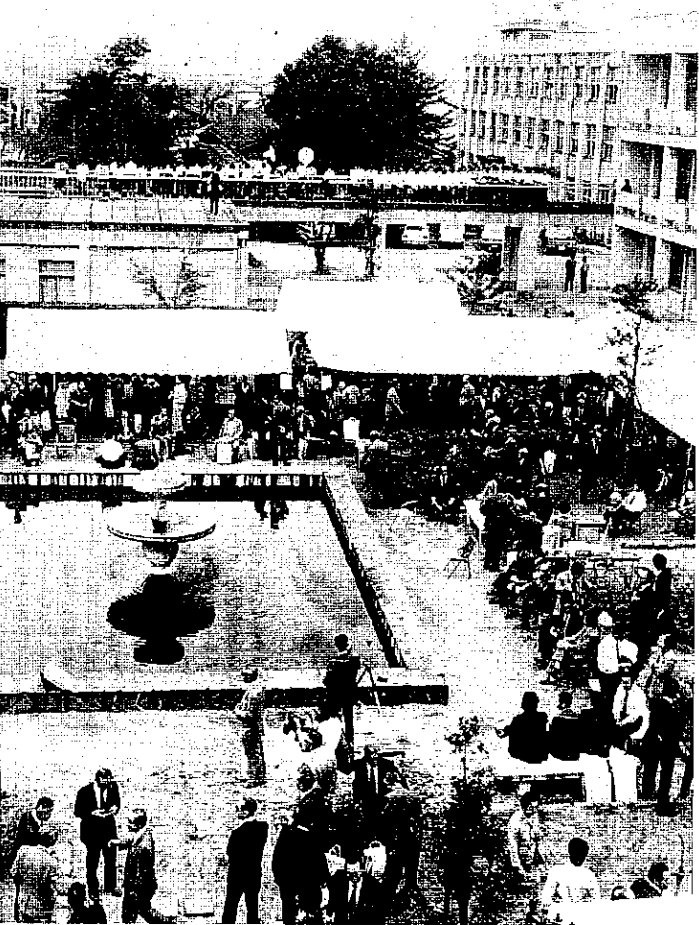


# その日

1980年10月12日——おりから雲一つない秋日和。明治13年に開校して源遠く悠久一百年。記念式典は午前10時に開会され、冒頭、校歌の大合唱にひきつづき、一同起立。この日、もの言わぬ戦死、戦病、戦災死、物故者をしのんで深い黙禱がささげられました。



どっとおしかけた同窓生一〇〇〇名—予定した記念品が足りなくて—



## 再会、喜び合う 顔、顔を紅潮させて

☐ の日、どっとおしかけた同窓生は一千名をこえ、体育館はぎっしり超満員。在校生は日を改めて式典を行いました。実行委員会が用意した記念品のアルバム、記念手紙、銘酒「津高百年」が足りず、うれしい悲鳴。

☐ 東京芸大助教授、作曲家野田暉行氏の指揮で記念讃歌の発表。在校生を代表して生徒会長三林英毅君(二年)が力いっぱい、一〇一年へ出発する津高生の気概をのべました。☐ 方、ブラスバンドの校歌吹奏で幕を切った祝賀会は中庭で。張りめぐらされたテントと紅白の幔幕が映え、なつかしい歴代校長・教職員の名もみえて、陳川、三重桜入りまじり、顔、顔を紅潮させて久々の再会をよろこび合いました。

☐ 始、司会役をつとめてくれた高木弘子さん(元東海ラジオ)は、愛知県春日井市在住、昭和四一年卒の麗人。もの腰やさしく、次々と野田哲造氏や山口賢子氏、北川登氏、市川一郎氏らを紹介してくれました。(写真は祝賀会場風景)

☐ 第一面「創立百年記念祭アルバム」は本校教諭千草光洞氏の書です。

その瞬間——うつくしいフィルムのように思いいづるあの日、あの頃(式典会場風景)



「祖先の遺流守れ永遠に」——声はりあげ歌う一中校歌。木村さんもきょうは客席で。



泣いていた顔、顔、顔——「おみなの道を修めつつ、三重のさくらの色もよく」



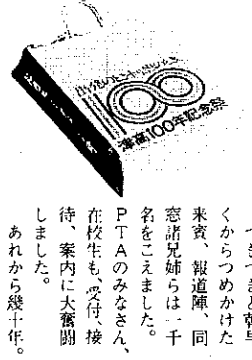
「古き流れのここに合い、又新しき流れなす」——伝統を継承し、津高よ、進め!

伝統を継承し、  
母校よ、すすめ!

ゆめにまでみた母校！戦災で刑部校舎を失  
した。あれから幾十年。  
在校生も、受付、接  
待、案内に大奮闘  
しました。

式典で経過を報告す  
る長谷川寛実行委員  
会事務局局長

同窓会事務局の  
仕事を、八年間、  
縁の下でささえ、  
百年祭を成功にみ  
ちびいた長谷川寛  
実行委事務局局長は  
その経過のあらま  
しを、記念式典で  
報告しました。もって解散いたします。



受付、案内、接待に  
PTA・在校生ら大奮闘!



黄色のジャケットに黒のタイト。終始、明るく祝賀会  
の司会をつとめてくれた高木弘子さん。



津高親子二代——佐久間尚子さん  
は昭28卒、昭子さんは昭52卒。揃っ  
て祝賀会に顔を見せ、昭子さんがス  
ピーチに立ちました。



市川一郎、西川棟伍元校長らの顔  
もみえました。



西宮市からかけつけた誓子氏は、かの島山一知多半島まで伊勢海を横切って泳ぎかえった観海流名手の物語から脱きほくし、自句自註をきかせてくれました。



碑におおわれた白布を、高下治彦君(2年)と増村直美さん(1年)がはずすと、紅縷網雲母安岩(四国徳島廣山産)に刻まれて、誓子氏の文字のさび——。



誓子氏作になる津高校歌第四連にちなんでおくれたこの句は、誓子の津高百年歌。句碑除幕にどっと二百人が参列しました。

誓子の句碑は現在、全国に一〇あり。正門の奥、渡り廊下の壁に建てられた百年記念誓子句碑はその第一〇九番目です。昨年暮れ、誓子は、句碑になった一〇にわたる句を、一つひとつ、みずから筆を執り、誓子句碑の書としてまとめ、出版しました。『若き日の句』はその本にも出ています。すでに母校図書館の蔵書として取られていますから、ご覧ください。

**石薬師の福本氏、石材を寄贈**

誓子句碑の石材を寄贈してくれた人は鈴鹿市石薬師町で漬物商を営む福本重厚さん。同氏所有の空地に植まっていたこの石を、まさにもなく、紅縷網雲母安岩にちがいないとみとめ、注目したのが澤下現校長。若き日には岩石を求めて各地を行脚したという。(ところがこの人の専攻は歴史学)「この岩盤で四国徳島の眉山公園はできて、この地以外には皆無の石。現在は採掘禁止で珍重されている」と澤下氏の弁。

山口誓子 記念句碑

若き日のけふもさる浪にも泳ぐ 誓子

津中学の碑一名に負う陳川(古河)、現在、津市立西橋内中学校の西門附近に建てられた三重一中跡の碑。果女の碑と共に吉原会長の揮毫。↓



↑県立高女の碑—県立津高女のあったゆかりの柳山(現在は津実業高校)に建てられた記念碑。

出発のとき回想のとき



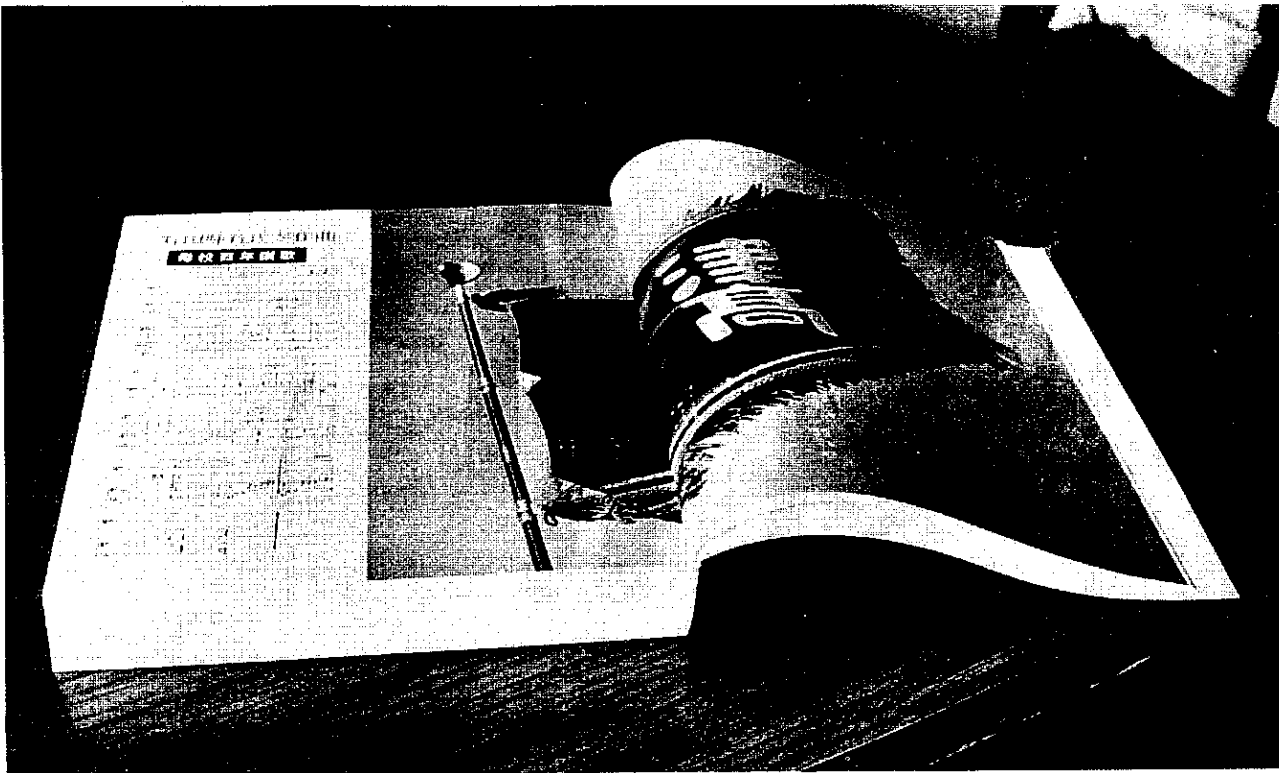
同窓会長 澤下 一 敬

昭和五十五年十月八日、津高体育館で創立百周年記念式典に同窓会として在校生諸君にお祝いのあいさつをした。私が津中学校に入学した昭和四年に創立五十周年の記念式典があり、記念講演に卒業生の紀平正美博士と松井春生先生の話を聞いた。今回の百周年記念講演会でも、文学者の駒田信二氏がこのときの紀平博士の話にふれて、「サーバのボール」自分のボールという誓子氏のことばが忘れられないといわれた。ひとつのボールを打ちあつてはじめて「サーバ」というゲームが、社会がなりたつのだという意味づけとめていた。野球の投手をして一年先輩の阪神タイガース社長の小津正太郎氏の話

も、医学の西岡久寿雄氏の話も、きわめて有益だった。五十年前、県下の県立中学校は北から桑名、高田、神戸、津、上野、宇治山田、尾鷲、木本の八校だった。現在、県立高校の数は五十八校に倍増している。明治大正の先輩が、教育が富国の基と信じて学校を各地につくってきた話をした。百年前の外国語による授業、全国的に活躍した武蔵、スポーツの精神は現在の高校に受けつがれて、時移り人変っても開校当時の初心にかえり、回想のときがあつてはじめての二百年にむかって「出発」のときとなるのはなにかうかと思へた。中学校も高等女学校も昭和二十三年の学制改革によって、「古き流」のここに合い、又新しく流れる「新」の校歌のとき、新制高校が誕生してからも後三十有余年の歲月の中になく新しい成長があつた。タイムカプセル」といふことばがふと口をついて出た。この体育館へはいる直前、澤下校長から、在校生に埋めが現在の記録をタイムカプセルに入れて校庭に埋めるという話を聞いた。未来に託すプレゼントである。

「タイムカプセル」を埋めるぞうです。すばらしいと思います。私も五十周年記念式典に出席しました。こうして百周年記念式典におまねきを受け中学、高校時代、陸上競技やマラソンで鍛えた頑健なからだのお蔭で、一回も病気をしたこともなく、諸君の前でおはなしかできることさぞ喜ばしく思っています。ここにいられる諸君も、ひとりも欠けることなく五十年後のタイムカプセルを全員で開封して創立百周年を祝ってください。それが諸君にたいすのお願いです。と絶えず、満腹で語りつづいた。余地もない若々しい拍手に送られ、校門を出た。「健康でがんばれよ」と心の中で祈りながら。

昭和五十五年十月一日から十一日まで津高創立百周年記念行事は連日盛やかに行われた。天候にもめぐまれた。各部のOB現役の対抗試合も盛況で平均六五歳の竹林井、山本勝太郎、木下善、川合一雄、進名氏の昭和七、八年級の若田川レガッタは現役をしのぐ元気をみせた。浅野松海、藤島武二、鹿子木孟郎、赤松健作、林義明など、恩師美術展もすばらしかった。創立百周年記念誌「あ、母校」には、これらの代表作が収録され、岩倉規夫国立公文書館長から、記念誌では全国唯一の出来ばえだというお褒めの手紙をいただいた。十月十二日、創立百周年の記念式典が千人から集った卒業生の列席のもと行われた。同窓生の野田輝行氏作曲「母校百年讃歌」の発表後、校歌の作詞者山口誓子氏の「若き日のけふもさる浪にも泳ぐ」ときざまれた記念句碑と、卒業生の東畑謙三、百原氏の設計建築による「百周年記念館」が昇幕にできあがり、同窓生全員から記念館が学校に贈られた。津中、県立津高女、津高の校歌と母校百年讃歌の進軍メロデーの流れる中、澤下校長、生徒代表、山口誓子氏、同窓会東京支部長木村俊夫、大阪支部長野崎道郎、名古屋支部長平井進太郎ら各氏によって記念碑と記念館の除幕式が行われた。こうして三重県高校のひとつが、つぎの二百年にむかって新しい「出発」をした。——同窓会各位のお祈りを心から感謝し、皆様方のご健康を心からお祈りいたします。(三重県新聞記事)



百年記念誌「あゝ母校」—多色刷、変型大版、重さ四キロ

# 飛ぶように売れる百年誌

## 元々元々と寄せられる感想

**早速、病院の父に**  
あのような貴族のあるものは想像していませんでした。御苦労の程が本の重みと共に、すっきりと伝わって参りました。とてもまだ全部に目を通すころまでは参りませんが、父がよく語っていた私田校長のこと、岩田川のことなど、自分のことのようになつかしく、明日、早速、病院へ持参するつもりでございます。  
中津川市本町二一 森 寛子

**文化あふれる校史**  
まさに豪華絢爛で、全く驚いて参ります。こんなカラフルにして文化の溢れる校史は見たことがありません。現在の在校生諸君にもっと深い感銘を与えるものと存じます。ゆっくりと熟読させていただきます。  
名古屋市東区小池町四六二一三 黒川 三男(昭13卒)

**脱帽、最敬礼の気持ち**  
百年誌「あゝ母校」受取りました。予想よりはるかに素晴らしい内容に昨夜は夢中で頁を繰りました。編集の方々の御苦労を感ずる。この書は、脱帽、最敬礼の気持ちです。これから自分、夜の時間は「あゝ母校」にとらわせます。津高の発展を祈ります。  
岡山市福浜西町六一八 島 節子(昭19卒)

**家宝として大切に**  
充実した大部の本を作られるには、どれほどの御苦労が伴ったことでしょうか。編集委員の御気力に心から感謝いたしますと共に、ご懸念申したく、大変な内容に感激いたしました。欠点といえば、古びたわが家は置場所に困っています。  
ここにしばらくは預かしのつづきです。主人もこれは一万円でもやすい申し

**迅速な事務処理に感謝**  
本誌発送の仕事のみならず、膨大な事務量と推測して居ります。このような際、受領通知はかえって煩雑かとも存じますが、迅速な事務処理への御礼を兼ね、

**あと在庫2000部**  
7,000部印刷しました。570ページ、多色刷り、大版(変型)、一冊の重さが一貫目もあります。飛ぶように売れまして、あと、2,000部になりました。学校の同窓会事務局まで、わざわざ買いに来てくださる方々が、一日に、多い日は十数人、少ない日でも四、五人は必ずきてくださいます。この種の本をわざわざとりにきていただくなどおもしろいもありませんでした。

**同封の郵便振込みで**  
すでに振込カードをおとどけしてありますが、もう一度同封いたしますから、最寄りの郵便局へお出しください。事務煩雑をさけるため、すでにご購入いただいた方にも振込用紙がとどきますが、あしからず。

**やむなく4月から500円値上げ**  
事情、万やむなく、4月より500円値上げさせていただきます。一冊3,500円、送料千円にさせていただきますので、おふくみください。

**「講読の方法など」**



**七里電之助**  
みなさんのご協力のもとに、やっと出来上りました。お蔭様で同窓各位によりこんで、いたいております。安堵の胸をなでおろしております。あれもこれもと落としておすことが多く、どうか、補ってお目通しいただければ幸いです。  
野口 章

**座右の銘、心の糧に**  
御丹精の百年誌ありがとうございます。毎日、大事に大事に読ませていただいております。長谷川素道先生のご遺影と句やかな御句に接し、俳句を心のよすがといたして参ります。共々、この上ない座右の銘、心の糧として、なんべんも読み返して参ると思っております。諸先生の御遺影もなつかしく拝見いたしました。  
滋賀県甲賀郡信楽町杉山一六五 杉本(伊東)文子(昭8卒)

**惜しめない讀嘆を**  
何よりも見事な記念誌には、惜しめない讀嘆のことは挙げます。あちこちで五十年、百年に当る学校の記念誌を見ますが、あれほど豪華で、美的鑑賞にたえ、内容の豊かなものをみたことがありません。郷里の母も、「とても素晴らしい」と手紙をかいてきました。美術印刷はたいへんだらけです。ヤギさんの名画は、あれだけでも一冊を手にする価値のある思いでした。頭の切れた手に鮮やかな第一印象をえたいものと過頭美しい校の写真などは、まだ、わざと見えないのです。  
東京都三鷹市年礼二一四一六 森田 功(昭20卒)

**一筆草々**  
名古屋市中東区小池町四六二一三 黒川 三男(昭13卒)

**迅速な事務処理に感謝**  
本誌発送の仕事のみならず、膨大な事務量と推測して居ります。このような際、受領通知はかえって煩雑かとも存じますが、迅速な事務処理への御礼を兼ね、



よき仲間たち  
左から昭和33年同期の中根章、萩原重吉、野田暉行、奥田栄子、伊藤年代の各氏。  
(祝賀会場の中庭にて)

### 記念讃歌レコードできる

#### A面に百年記念讃歌、B面が校歌集

さる二月二十八日(例)式に新入会員にお祝い  
記念讃歌作曲者の野田  
暉行氏を、ふたたび招  
き、その指揮によって、むこう三年、この記  
「歴史をつぎて」を  
のよき名のレコード  
「歴史をつぎて」を  
のよき名のレコード  
「歴史をつぎて」を  
のよき名のレコード

# 野田暉行と歌う



### 作詞者の横顔

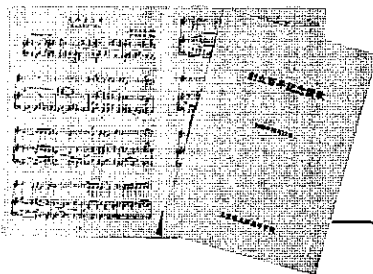
#### 「歴史をつぎて」の野田暉行氏

十数篇の応募の中から選ばれた二篇。その  
作詞者の横顔をご紹介します。  
「歴史をつぎて」の野田暉行氏は東  
京大学文学部卒。母校で英語を教えています。  
津中在学中は終始秀才でうたわれる。雨天体  
操場東(第一運動場といっていた)で行なわ  
れた朝礼では、野田氏の号令「下、足並みが  
揃ったものです」

#### 「そのよき名」の深沢泰二君

「そのよき名」をつくったのは  
深沢泰二君。応募したのは三年生  
在学中でした。深沢君は「国語」  
が大好き。このころ稀な文学青年  
で、鋭い文章力と古典の実力をも  
っています。目下、一浪中、期待  
されています。

なお、野田暉行氏と深沢泰二君の  
父君、深沢清夫氏(昭和20年)は  
レコード製作費の一部にと、それ  
ぞれ五万円を事務局へ寄せてくれ  
ています。



### 「歴史をつぎて」と「そのよき名」名曲・記念讃歌をうたって

#### 鋭く、深く、あたたかい野田先生の目

渥美 智子

あたにかいメロディ。「歴史をつぎて」と「そのよき名」津高百年の流れ、あすの津高への流れ。私たちが音楽部は、野田先生の指揮のもとで歌うことができて最高にうれしです。野田先生の指揮していただくときは、私は深く、深く、あたたかいひびきを感じて、世界へ広がっていく感じがして、自然に力がでてきて、力一杯、歌ってしまいました。これはとすばらしい人が私たちの大先輩であり、私たちが私たちがこの津高で高校生活を送れたのだと思おうれいような気がします。レコーディングによって、この歌がさらに多くの人々の耳に残っていくのは、いいなあと思います。レコーディングでは、上手には歌えませんでした。私たちが、これからの歌を大切にしたいと思えます。

#### 曲に秘められた雄大な

大野 拓哉

「歴史をつぎて」「そのよき名」この創立百年記念讃歌二曲を、はじめて歌ったとき、内に秘められた雄大な雄大さを感じた。創立百年が過ぎた津高、その間には、数々の出来事があったことだろう。野田暉行先生の存命中もそうであったにちがいない。それを思いだされるように、そしてまた思い出の中からは新しい自分を創りだそうとして作られた曲だとほくほくおもうた。

#### やさしくきびしい指導

齊藤 広子

私たちは、はじめてレコーディングということを経験しました。指導かつ指揮にみた野田先生は、録音の際、きびしく注意しながらも、つねに明るい雰囲気の中でリードしてくださりました。昔の津高は、女子が少なかった。そんな無難なことは、私たちが緊張した気持ちは、どほどほくくれたことでしょうか。また、終了と同時に、優しく拍手を送ってくださいました。先生の姿は、私の脳裏に残っています。

#### いつまでも歌い続けて行こう二つの名曲

鈴木 伸哉

この二つのすばらしい記念讃歌をうたえたことを、ほんとうに誇りにおもっています。はじめて羽根先生から楽譜を受けとって、から、十回と歌ったはずであるにもかかわらず、この曲は歌えばうたうほど、しみじみとした味わいが出て、歌い手であるばかりの心に、さわやかな感動を与えてくれます。苦しみや悲しみにぶち当たって挫折しようとする、ふと、このレコードに針を落としてみませんか。三時間という短い時間での録音ですが、部員一人ひとりが、それぞれの思いをこめてうたいました。この曲が、いつまでもいつまでも、この津高で歌われることを、祈りながら、

音楽部の生徒たちは、レコード吹きこみの日、それぞれの思いをこめて、いっしょけんめいに歌いました。一年生の部員たちが、その日の感想を寄せてくれました。一年生、二年生、三年生、四年生、五年生、六年生、それぞれ、それぞれの思いをこめて、いっしょけんめいに歌いました。一年生、二年生、三年生、四年生、五年生、六年生、それぞれ、それぞれの思いをこめて、いっしょけんめいに歌いました。

# 水陸OBスポーツ大会



## 記念館みごとに完成



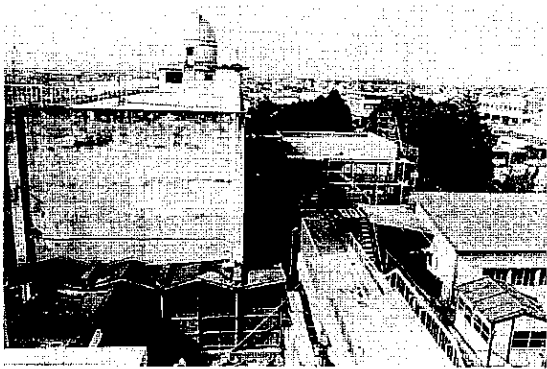
### 理科棟関連工事も完工まじか

総工費4000万円の県費で、理科棟への渡り廊下と専用トイレがまもなく完成します。いうなれば、県当局の津高百年への贈りものです。

#### 二氏に感謝状を贈呈



記念式典で、記念館工事を大きな犠牲と献身的な努力によって完工した東畑設計事務所(社長東畑謙三氏・大正9年卒)と河村産業所(三重支店長・相原伝氏・昭12年卒)にたいし、学校長は感謝状を贈呈してその功績を賛えました。



### われら、100年にめぐりあう

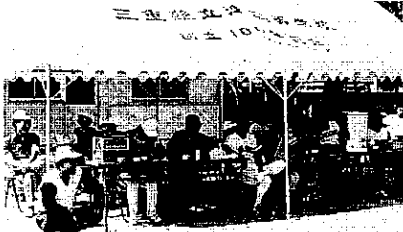
若き日、「おれごと、おまえで勝負合、おなじカマのめしをつつきたつたゆえになつかしい願願。在校生も交えて盛んに創立百年記念OB水陸スポーツ大会は、十月五日(日)に開催されました。バレーボール、野球、弓道、テニス、剣道は母校で、一方、岩田川では県下チームも招き、伝統のボートレースがくりひろげられました。また、昭和22卒の井土熊野氏(津市在住)、昭和26卒の川村経造氏(四日市在住)から、それぞれシ

グレスカルやナックルフォアが寄贈され、附記して感謝いたします。なお、卓球部でもOBの義金で高級卓球台が五台寄贈されています。

### バレーボールOB大会



百年を機会に津高バレーボールOB会が誕生。



歌いついで行こう/「高き経がの峰にとり……」



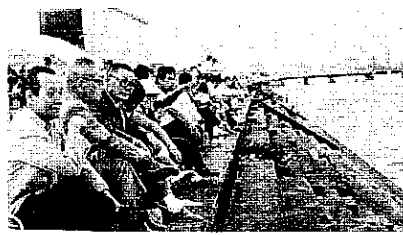
弓道の津中、弓道の県立、そして全国制覇の津高弓道。



先ず名簿づくりからはじめます。



会長金丸さん、村田豊一先生以下、44名が観戦試合。



観戦する田中PTA会長—宮川高、三重大、神前、本田、三菱モント各チームも招いて

### 百年祭会計概算ご報告

| 収入  |            | 支出         |            |
|-----|------------|------------|------------|
| 寄付金 | 74,300,000 | 募金費        | 5,200,000  |
| 繰入れ | 8,000,000  | 行事費        | 10,000,000 |
| 雑収入 | 5,110,000  | 事業費        | 54,500,000 |
|     |            | 事務局費       | 3,600,000  |
|     | 87,410,000 |            | 73,300,000 |
|     | 差引き        | 14,110,000 |            |

(一時百年誌の支払いにまわす。)

別途、農協会館で行なわれた祝賀パーティの純利益金120万円は百年記念館の内部施設の一部として寄贈しました。

| ●百年誌会計            |        |              |                |
|-------------------|--------|--------------|----------------|
| 54・55年卒(2,000円)…… | 880冊   | 印刷製本(オリエンタル) | 10,000,000     |
| 在校生(2,500円)……     | 1,100冊 | 紙(ミフジ)       | 8,000,000      |
| 卒業生、一般(3,000円)……  | 2,200冊 | 取材関係費        | 1,300,000      |
| 贈呈                | 400冊   | 紙 + α        | α              |
| 計                 | 4,580冊 | 計            | 19,300,000 + α |

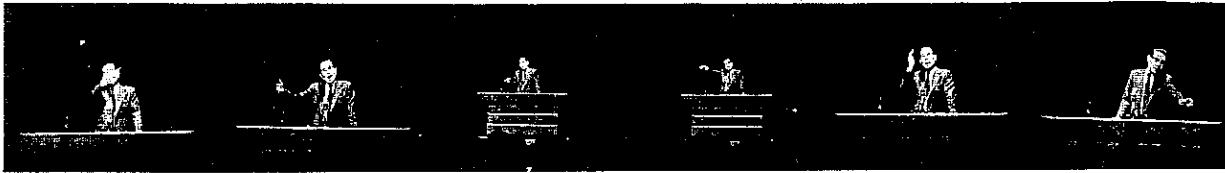
#### ひきつづき百年記念寄付を受けつけています

まことに申しかねますが、お気持ちがありながら、心ならずも、またお忘れの向きも多々あるようです。また、ない母校の感事、さっそく、同封の郵便振込にて、事務局へお届けくださるよう訴えます。

### うどん一杯でがんばった年度幹事

年度幹事のみなさんは百年祭成功をめざして、夜おそくまで、同級生へ呼びかける手紙をかいてくれました。また、各担当委員は同窓生、PTA、職員一体となって趣向をわりました。夜食のうどんの味が忘れられないと幹事さんたち。





球団阪神タイガースの小津正次郎さんから全校生徒がおもしろい人生哲学のお話をききました。

記念講演

百年記念津高文化祭第2日目の10月11日(土)、全校生は三重県文化会館に集って、いまをときめく大先輩、球団阪神タイガース社長小津正次郎氏(昭和7年卒業)の「私の歩んだ道」と題する講演にきき入りました。決して平坦ではない生涯を、気概と実行力にみちて具体的に生きる人生哲学は実にゆたかであり、愛にみちており、津高生を抱きとめるように表情的であり、教訓にみちていました。

10月11日

津高生、健在なり

津高生たちこそは、百年祭をささげました。彼らは、タテ割アセンブリで、「百年祭とは何か」という原点から話し合いはじめようとしていました。いまや高校生たちの肩に苦痛と不安はのしかかっています。複雑に進行する社会にあつて、津高生たちもまた、気ぜわしく、追い立てられるおもいで、足どり重く、まいにち、校門をくぐってきます。そんな中で、体育祭を皮切りにくりひろげられた津高百年祭の諸行事を、縁の下でささげ、生徒会執行部を中心に実によく働きました。百年祭を、いまはみずからものとなしえなくとも、彼ら自身の手で埋めたタイムカプセルを掘りおこす日、きょう百年祭の日津高生たりえたことをきくと、きつと、誇らしく語るにちがいありません。「津高生、健在なり」と題し同窓会のみなさんに、津高生たちの表情の幾枚かをとおどけします。



詩 集まろうじゃないか/集まろうじゃないか/ひとりぼっちでいずに/こうやって集まろうじゃないか/寒くても、あったかくなるし/心が大きくなる/勇気も湧いてくるというものだ。



榎の木よ、伸びて枝を張れ

記念植樹祭

記念祭第三日目は「生徒百年祭式典」第一体育館がせまくて、同窓生一般と一堂に会することができませんでしたが、式典のあと、全校生徒、教職員が注視する中、記念植樹が行われました。各学年代表が出て、学年ごとに一本ずつ、計三本の「うばめ榎」を中庭に植えると、生徒たちはどっと教室のテラスや屋上にあふれ、拍手と歓声がわきおこりました。ひきつづき、合唱コンクールには、各学年から十二クラスが出演して、課題曲(アメリカ民謡「村の教会」)と自由曲を、クラス色ゆたかに競い合いました。優勝したのは二年七組でした。夕刻四時からは前夜祭。点じられた

百年祭標語の表彰 生徒会の発案で募集された百年祭標語。169句が集まりました。国語科の先生方の選で二年八組鈴木規子さんの「出発のとき回想のとき津高百年」が入選しました。佳作四句もふくめて写真はその表彰。



創立百年を迎えた朝の正門

体育祭

百年祭序曲ともいうべく、五年度秋季運動会は十月一日(火)、同窓会、PTAの参加を呼びかけて盛んに幕をあけました。「さいきんは、津高名物だった仮装行列もないのですか」と、先輩はちよつぱりさみしうにもいらしてました。体育祭の写真は、後日出版予定の記録集に収録いたします。

『若い女性に期待する』 佐々木かよ副会長も講演

『白鳥よ、いずくの空に』 竹田先生が特別講演

『ご注文にに応じます』 熊田さん、百年祭ビデオを製作

昭和十八年卒の熊田豊吉氏が、津高百年祭の全日程にわたる諸行事をビデオに撮ってくれました。ご希望の方は同窓会事務局までお申し込みください。



# 記念文化講演会

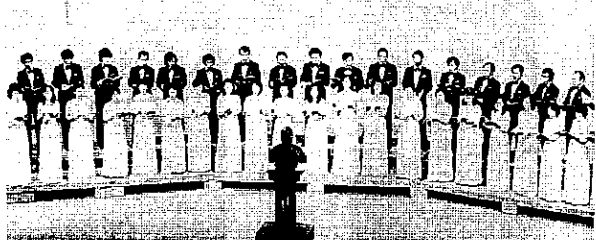
記念文化講演会は10月10日(金)午後六時から文化会館でひらかれました。左のように題して、東京都臨床医学総合研究所副所長、WHO肝炎ウイルスセンター長・西岡久寿弥氏(昭和17年卒)と早稲田大学教授、作家、評論家・駒田信二氏(昭和6年卒)が講演しました。詳細は記録集へ。写真下は演壇の駒田氏(右)と西岡氏(左)



伊勢人は僻言才 講師 駒田信二先生  
雨炎の心と日本民族 講師 西岡久寿弥先生

## 東京混声合唱団を招く

手をあげてふるまう指揮者田中信昭氏



(第)四 日、十月九日(木)  
指の東京混声合唱団、わが国屈指の東京混声合唱団、いわゆる東京混声合唱団の名がはるばると来演



### 超満員の盛況

#### 万雷の拍手鳴りやまず

昼夜二回演奏 昼は生徒たち、夜は市民におくる夕べとして、ひろく  
各地から音楽愛好家たちがあつめて文化会館は超満員。うつくしい演奏は会場を魅了しました。

指揮は田中信昭氏。その日の出しものは、①「西洋音楽の流れ」と題するイタリヤ、フランス、イギリスのミソ曲など「風の馬」

②三善晃作曲の「混声合唱とギターのための組曲「ポールの線」による絵本のために」③武満徹の「風の馬」

●津高百年友情餅つき



いさぎよいキネの音が中庭にひびいていました。(文化祭で)

■カプセル埋蔵二〇三〇年にあけます



津高生たちも六十じ。受験地獄はなおついているでしょうか。

●先生方もハッスル(文化祭)



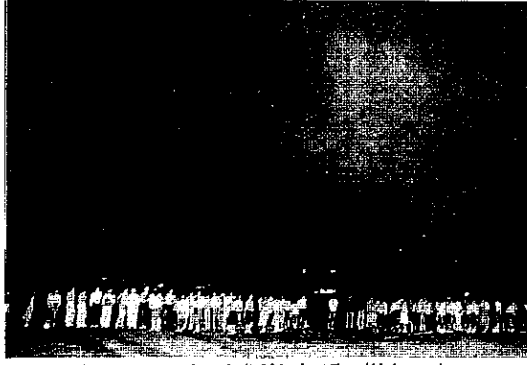
ハヤシコフスキー指揮。津高BANSEI合唱団の熱演。

■観海流寒中水泳



55.1.15 岩田川寒中水泳に「祝/津高百年」—百年、がうつらず残念。(中日新聞社提供)

●前夜祭フオークダンス



毎日、まいにち、たぎぎをくべろ。(校庭にて)

### 三重桜部会総会のお知らせ

日時 昭和五十六年四月十九日(日) 午前十時受付 午前十時半開会

場所 三重県立津実業高等学校 体育館 津市柳山津興

備考 イ、なつかしい県立津高女跡で総会を行います。学校跡の記念碑も建ちました。ご覧下さい。

ロ、食事等詳細は、学年幹事からお知らせします。

ハ、前号の同窓会報に四月二十九日と発表されましたのはミスプリントです。訂正いたします。

ニ、スリッパを必ずご持参下さい。

正門前、五軒道路にかけられた横断幕



### 資料展に見入る人々

同窓諸兄弟から寄せられた往時アルバムなど、津中、県女百年を物語る資料展もにぎわいました。

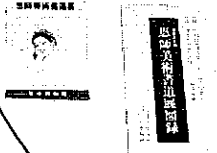


### 茶席

記念品や水天



記念アルバムと記念酒



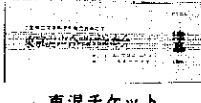
美術展ポスター



手拭



総合プログラム



東混チケット



入場券

### 資料展

一本開にはられた資料展会場内のポスターに人気が集中中。

一人口で観覧する人々



### 津市農協会館で祝賀パーティー開く

同窓会とPTAの主催で、10月12日(日)、すべての行事が終了後、会場を農協会館ホールにうつして「祝賀パーティー」がひらかれました。参加者おおよそ500名。各自、会費5,000円負担で、この利益金は新装成った百年記念館の内部設備の一部として寄贈されました。



津高100周年記念祝賀パーティー



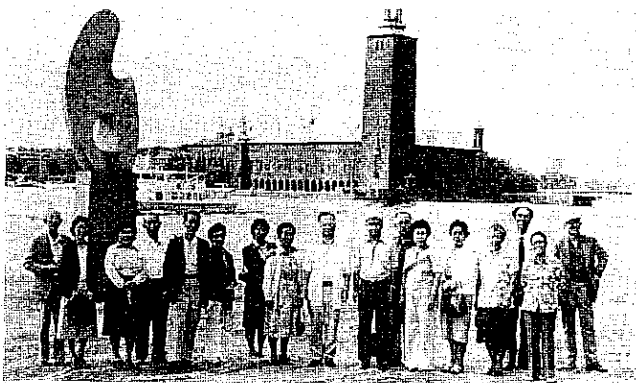
### ご連絡

新版同窓会名簿少々おくれます  
「名簿はまだか」とお問い合わせいただき、同封のアンケートはがきで、ご意見やご希望を伺った上におもいますのでぜひ、ご返信ください。

百年祭記録集の出版について  
記念誌「あ、母校」の姉妹篇として「百年祭記録集」を発行予定です。一冊千円、送料五百円。六月頃発行予定。

### 北ヨーロッパツアー

### 百年記念北欧の旅も実現



総勢17名の参加があって、津高百年記念北欧の旅が実現しました。(8.12~20) 数百枚のスライドもできています。母校へお立ちの節にはご覧ください。写真はストックホルムにて。